

普及項目	増殖
漁業種類等	漁船漁業、採介藻
対象魚類	海藻類
対象海域	八代海

八代市二見地先における藻場造成試験

県南広域本部水産課・香崎 修

【背景・目的・目標（指標）】

藻場は「海のゆりかご」と呼ばれ、魚介類の産卵場所及び稚仔漁の生育場所として重要な役割を果たしており、近年の漁獲量低迷等を背景に、漁業者の藻場造成に対する関心は高まっている。八代市二見地先では、昭和時代に多くの藻場が消失し、わずかに残っていたガラモ場についても、平成12年（2000年）の調査時点で消滅が確認されている。このような状況から、藻場の回復には人為的な取り組みが必要と考えられるため、人工採苗したワカメを現地へ移植し、継続して生育状況について調査を行った。

【普及の内容・特徴】

地元漁業者との普及啓発打合せ及び現地試験等を表1のとおり実施した。

表1 作業履歴等

No.	年月日	実施内容	場所	同行・同席者等
1	2025年1月29日	試験打合せ	二見漁協	組合長他1名
2	2025年2月12日	試験打合せ及び現地確認	二見漁協地先	組合長他3名
3	2025年2月25日	人工種苗生育状況確認	水産研究センター	県2名
4	2025年3月2日	現地踏査	二見漁協地先	組合長
5	2025年3月4日	人工種苗移植作業(第1回)	二見漁協地先	—
6	2025年3月17日	試験打合せ	二見漁協	組合長他1名
7	2025年3月18日	生育状況モニタリング及び人工種苗移植作業(第2回)	二見漁協地先	組合長、八代市職員1名、民間業者1名
8	2025年4月30日	生育状況モニタリング	二見漁協地先	組合長
9	2025年5月27日	生育状況モニタリング	二見漁協地先	組合長、県1名

試験の実施に当たっては、将来的に漁業者自らが取り組めるよう、可能な限り簡易な方法となるよう留意した。使用した種苗は、水産研究センターにおいて、令和6年（2024年）10月1日に配偶体から人工採苗・育成したワカメ種苗を用いた。令和7年（2025年）3月4日に、10～25cm程度まで成長した種苗を上天草市から運搬し、同日中に二見地先へ移植した。移植に当たっては、φ12mm 綿ロープ（約3m）にワカメ10株を取り付け、ワイヤーで固定したものを作製し、波浪条件の異なる2区画にそれぞれ1本ずつ設置した。

【成果・活用】

設置1ヵ月後の観察では、移植した20株のうち3株が残存しており、葉長は21～42cm

まで伸長していた。また、このうち 1 株では、メカブが出来ていた。一方、2 ヶ月後の観察時には、周囲の天然ワカメも含め枯死していたことから試験を終了した。残存数が少なかった要因として、3 月後半にあった時化の影響や固定方法の問題が考えられ、移植方法に課題を残した。しかしながら、移植した個体で成熟が確認されたことから、人工種苗の移植による藻場の再生産の可能性が示唆された。

また、5 月の調査では、固定用丸環やロープ類にイカ類の卵が産み付けられており、藻場造成の取組み自体が産卵基質の提供に繋がると期待できる。

さらに、周囲の天然群を含め、魚類による食害と思われるせん断面が一部観察された。このため、次シーズンは食害による影響の有無を調べることを主眼として試験を継続することとする。

【達成度自己評価】

3 おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた（51～75%）



図 1 現地調査（3 月 2 日）



図 2 種苗のロープ固定状況（3 月 4 日）



図 3 設置状況（3 月 18 日）



図 4 現地観察・協議（3 月 18 日）



図 5 成長・成熟状況（4 月 30 日）



図 6 ロープ等に産み付けられたイカ類卵塊
（5 月 27 日）